

小学生12.9万人減、学校215校減。学校数は同じ速さで減っているか？

対象：2024年から2025年（各年5月1日現在）

公開日：2026-09-02

結論

2025年の小・中・高では、在学者数が学校数より速く減り、1校当たり在学者数も低下しました。これは全国の施設・人員調整が在学者減と同率ではなかったことを示します。しかし、余力が調整遅れかは全国値だけでは決まりません。次の判断単位は自治体・学校・通学圏です。

-2.18%	-1.14%	312.4人
小学校の在学者	小学校数	2025年の小学校1校当たり

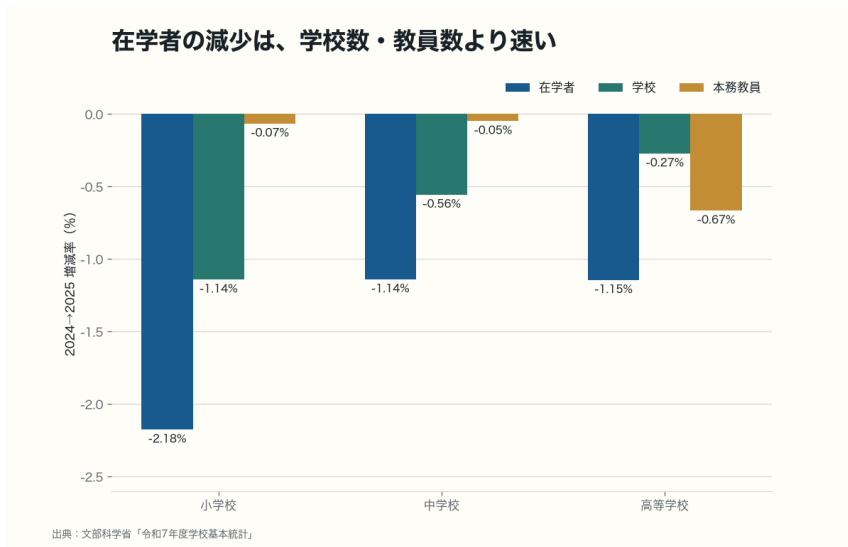


図 在学者・学校・本務教員の減少速度。3校種とも在学者の減少率が学校数を上回ります。

分かったこと

1. 小学校の在学者減は学校減の約1.9倍：在学者-2.18%に対し学校-1.14%。
2. 1校当たり在学者数は3校種すべてで低下：小学校-1.05%、中学校-0.59%、高等学校-0.88%。
3. 教員比の改善と学級規模は別物：全国の在学者／本務教員比は下がりましたが、担任外教員、教科配置、地域差を含むため、学級の人数を示すものでは…

限界

1. 全国集計で、市町村・学校ごとの分布を示さない。
2. 1年比較で、長期傾向や将来予測ではない。
3. 本務教員比は学級規模、授業人数、教員充足を直接示さない。

次のデータ

自治体×学校×年の在学者、学級数、教員配置、校舎状態、通学時間、人口推計を結合し、学校規模の分布と地域制約を調べます。

出典

文部科学省 | 令和7年度学校基本調査（確定値）／文部科学省 | 調査結果のポイントPDF